

環境経営レポート 2026



対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日

発刊日

2026年8月7日



緑でネットワーク

九州林産株式会社



ずっと先まで、明るくしたい。

目次

- | | | | |
|-----------------------|------------------------|-----|------------------------------|
| P1 | 会社概要 | P8 | 環境経営方針3
自然共生社会への貢献 |
| P2 | 事業案内 | P9 | 環境経営方針4
社会との協調 |
| P3 | 事業活動と環境経営の一体 | P10 | 環境経営方針5
環境管理の推進 |
| P4 | 2025年度
環境経営目標・実績・評価 | P11 | これまでの環境活動による成果 |
| P5 | 実績グラフ | P12 | 代表者(社長)による全体の評価と見直し・指示 |
| <主な取組内容> | | P13 | 2026~2028年度
環境経営目標・環境経営計画 |
| P6 | 環境経営方針1
脱炭素社会への貢献 | | |
| P7 | 環境経営方針2
循環型社会への貢献 | | |

社長挨拶



<企業理念>

自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します

当社は、企業理念のもと、林業や緑化事業、官公庁所管施設の指定管理者業務など、自然環境の保全にかかわる事業活動を展開し、持続可能な社会の実現の一助となるよう努めております。

2025年度は、環境負荷低減に資するDX推進などに取り組み、業務の効率化や生産性の向上を図りました。今後も業務改善と環境配慮の両立に努めながら、長年培った知見を活かし、事業活動と環境経営を一体のものとして着実に推進してまいります。

2026年8月
代表取締役社長 江口 洋之



坊ガツル湿原

会社概要

(2026/3/31現在)

社名 九州林産株式会社 代表者 代表取締役社長 江口洋之 資本金 4億9,000万円 売上高 33億7,293万円

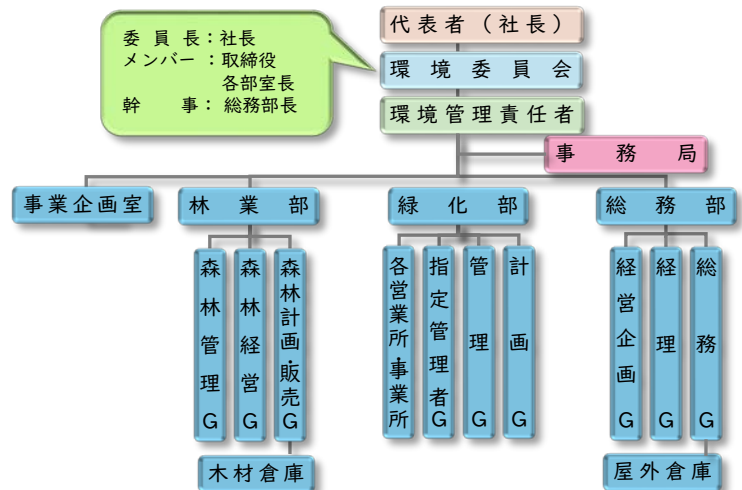
事業活動 土木工事業、造園工事業、とび・土工工事業、園芸事業、造林事業、木材事業、不動産賃貸業ほか

許認可 国土交通大臣許可 特3-第1615号 特定 造園工事業、特定 土工工事業、特定 とび・土工工事業

主な資格取得一覧

造園施工管理技士（1・1級補・2級）	48名
土木施工管理技士（1・1級補・2級）	43名
造園技能士（1・2級）	6名
測量士	1名
公園管理運営士	3名
林業技士	7名
森林情報士（1・2級）	4名
森林管理士	8名
森林インストラクター	4名
森林施業プランナー	3名
環境教育インストラクター	4名
ピオトープ管理士（1・2級）	9名
衛生管理者	2名
建設業経理士（1・2級）	12名

エコアクション21（EA21）推進体制（対象範囲：全組織・全活動）



●本店・福岡営業所

福岡市南区野間3丁目7番20号

●佐賀営業所

東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112-1

●松浦事業所

松浦市志佐町白浜免字榎田302

●長崎営業所

西彼杵郡長与町高田郷1809-1

●苓北事業所

天草郡苓北町大字年柄字帝陽1091-6

●熊本営業所

熊本市東区健軍2丁目18番26号2F

●北九州営業所

北九州市小倉北区米町2丁目2番1号

●林業部・事業企画室

由布市湯布院町中川815-1

●玖珠事業所

由布市湯布院町中川815-1

●大分営業所

大分市大字青崎4番1

●宮崎営業所

宮崎市江平西1丁目3番6号841号

●鹿児島営業所

鹿児島市上之園町24番2第12川北ビルBOIS鹿児島

※緑部分は九州電力社有林

環境管理責任者

総務部 経営企画グループ
グループ長 大原 雄二郎

連絡先

092-562-3014

ホームページ

<https://www.q-rin.co.jp>



沿革

1919~

1919
九州水力電気
(後の九州配電)
が大分県の実野
造林に着手



当時の苗木の植え付けの様子

1923
自社生産苗による植林開始

1949
九州配電(後の九州電力)の林業部門から
分離・独立し、九州林産が発足!九州配電社
有林の森林経営を受託

1965
電柱が木製からコンクリート製に移行し、
電柱材供給としての役割終了

1965~

1965
造園・園芸事業に参入

1973
九電グループ内
での緑化・環境保
全業務の実績を
踏まえ、グルー
プ外の造園工事や
工場緑化へと事
業を拡大



2005
九州電力社有林がFSC®森林認証
(FSC-CO18956)を電力会社として初取得

2008
・公園などの指定管理者業務へ参入
・EA21認証取得(本店)、翌年全社認証を
取得

2014~

2014
・「生物多様性ガイドライン」作成
・環境教育の場として九州電力社有林内に
「くじゅう九電の森」を整備

2016
九電みらい財団と本格的な環境教育への
取り組み開始



2021
九州電力社有林でのJ-クレジット創出
取り組み開始

2022
早生樹の試験植栽開始

事業案内

緑化事業

● 緑化工事



鉄塔の敷地保全、発電所や変電所の緑化工事、公共の公園整備などを施工しています。

● 緑地維持管理



これまで手がけた緑地や公園等を適切に維持管理しています。

● 指定管理者業務



公営の公園の管理運営を行っています。

林業

● 九州電力社有林管理



九州電力社有林を適切に管理し、水源かん養、生物多様性の維持、CO₂固定化に努めています。

● 森林整備



安全性・生産性向上のため、高性能林業機械を導入し、国有林・県有林の伐採などの施業を行っています。

● 木材販売



九州電力社有林や国有林・民有林などで生産した丸太や製材品を販売しています。

事業活動と環境経営の一体化

企業理念

1

自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して社会に貢献します。

2

技術力を高め、すぐれた製品とサービスを提供し、お客さまの信頼にこたえます。

3

創造力と行動力をつちかい、活気溢れる企業風土をつくりします。

環境経営方針

制定日：2007年12月14日 改正日：2026年4月3日

1. 脱炭素社会への貢献

脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガス排出抑制に努めます。



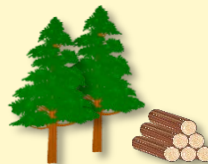
九州電力社有林

森林面積 **4,447ha**
※東京ドーム約950個分
木材生産量 **13,435 m³**
成長量 **29,472 m³**
※人工林のみ
CO₂吸収蓄積量 **146.2万t**

適正な間伐は、樹木の成長量の増加を促し、森林のCO₂吸収機能の最大化へつながります。

2. 循環型社会への貢献

廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、^{きりすて}伐材など未利用資源の有効活用等に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。



パルプ材
合板材
建築材

端材等はバイオマス燃料として活用



モザイク状複層林
(次世代の大分森林づくりモデル林)

3. 自然共生社会への貢献

事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。



ヒメユリ



植生調査

4. 社会との協調

環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。



環境教育の様子

5. 環境管理の推進

環境関連法規を守りながら、情報を共有し、全社で協力して環境マネジメントシステムの品質を向上させます。

九州林産株式会社
代表取締役社長 江口洋之

SDGsの達成



2025年度環境経営目標・実績・評価

環境経営方針	環境経営目標					※1 実績	主な取組み内容	※3 取組 評価		
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量 (単位:t-CO ₂) ※2		255 以下	216	・エレベーター使用を控え、階段を使用するよう努める ・冷房28℃、暖房19℃に室温を設定 ・始業前、昼休みの消灯や unnecessary 照明の消灯を徹底	○		
			電力消費量 (単位:MWh)		187 以下	186				
		運輸面でのCO ₂ 排出の抑制	車両燃料消費率 (単位:km/ℓ)		14.1 以上	13.9	・エコドライブの実施 ・車両更新時において、低燃費車へ計画的に切替え	○		
			上水使用量(単位:m ³)		631 以下	575				
	カーボンニュートラルの実現	J-クレジット(森林)創出の支援					・自治体等へ森林由来のJ-クレジット創出支援の実施と新規受注に向けた提案営業の実施	○		
	オゾン層の保護	規制対象フロン回収徹底と代替化への取組み					・法定点検を確実に、空調更新時には規制対象フロンの回収と代替化を徹底。	○		
	電化の推進	オール電化の推進					・オール電化資料を各所に配置し、PR	○		
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量(紙類以外)(単位:kg)	1,219 以下	1,193	・一般廃棄物の分別徹底によるリサイクル促進	○			
			産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	オフィス・工場	99.0 以上			99.9%	・産業廃棄物の分別徹底 ・廃棄物の再資源化 ・産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底	
				現場	97.0 以上			98.0%		
		循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率 (単位:%)		50.0 以上	57.3%	・林地残材の有効利用率向上、及び低質材の販路拡大に努める	○		
	コピー用紙購入量削減	コピー用紙購入量削減の徹底	コピー用紙購入量 (単位:kg)		2,225 以下	2,032	・会議資料や周知資料等のペーパーレス化を図る	○		
	グリーン購入の徹底	事務用品(紙類、文具類)とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)		97.0 以上	97.7%	・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底	○		
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する緑化事業活動の展開	提案営業で受注した植林・植栽を含む緑化工事件数(単位:件)		40 以上	36	・植林植栽を含む緑化工事の提案営業による受注に努める	○		
		生物多様性保全への取組み	希少種の保全活動		・希少種巡視活動を12回実施(23種を確認)			○		
			事業活動における環境リスクの低減		・施業前後にチェックリストで生物多様性に配慮すべき事項を把握・確認			○		
			化学物質使用量の削減		・代替物質の活用などにより、極力PRTR制度対象物質の使用を抑制			○		
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応					・環境上の緊急事態を想定した訓練を実施し、必要に応じて改善を行う			○
		4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境経営レポートの内容更新と積極的な公開・活用				・紙媒体から電子媒体への移行により、HPを活用し、効果的にレポートを公開		○
地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み				・社内外の清掃活動、計17回に延べ73人の社員が参加 ・九電みらい財団と協働し環境教育を計8回開催(学校向け374人・親子向け65人参加)			○		
	環境教育の内容充実と自律的改善の取組み									
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に応じたEMSレベル向上への取組み				・内部監査に併せてEMS運用業務支援を7箇所で開催			○	
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定				・環境関連データの全社大での確実な把握 ・過去3年平均+特殊要因を加味して、次年度の目標設定			○	
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み				・取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施し改善			○	
		環境会計データの確実な把握と活用				・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表			○	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加				・EA21監査での指導、みらいNetを活用した環境情報の共有の継続。社外情報収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ参加			○	
		九電グループネットワーク(みらいNet)の活用による環境情報の共有化								
環境関連法規の遵守徹底	環境法規制等の特定				・環境関連法規等を特定し、遵守状況を確認			○		
	環境法規制等遵守状況の確認・評価									

※1 の項目は現場の数字を除く

※2 二酸化炭素排出量は、以下の通り算出

- ・電力消費量に、九州電力の2023年度調整後排出係数(0.406kg-CO₂/kWh)を乗じて算出
- ・ガソリン使用量・重油などの使用量にCO₂排出係数を乗じて算出

※3 本評価は、目標達成状況だけでなく、取組・活動内容を含めて総合的に判断しています。

実績グラフ(2013年度を基準とした実績・効果)※

※ 2013年度：国が定めた温室効果ガス削減目標（2030年度までに46%削減）の基準年度



2025年度の主な取組み内容

環境経営方針I 脱炭素社会への貢献

3

4

7

11

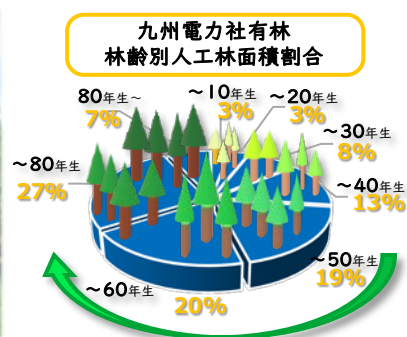
13

15

省エネルギー・省資源化の推進による温室効果ガス排出抑制に努めるとともに、森林経営の高度化によるCO2吸収量・固定量の増大を図り、脱炭素社会の実現に寄与していきます。

持続可能な森林経営

森林を50年・100年後の未来にも残せるように、持続可能な森林経営を実践しています。
また、適正な間伐を通じて樹木の健全な成長を促し、森林によるCO2吸収力を高めています。
(標準伐期：55年生以上)



PC入替による業務効率化・ペーパーレス化

2025年9月、業務効率化に向けた全社PCの置き換えを行いました。携帯性に優れたPCへの置き換えと共に、セキュリティを確保したりリモートアクセス環境を導入し、社外打ち合わせや現場から社内システムへのアクセスを可能にしたことで、書類の持ち運びが不要となり、業務効率化やペーパーレス化の更なる推進に繋がっています。



燃費グラフ

北九州営業所では、車両燃費向上のため、独自に月別の燃費実績をグラフ化し、営業所内に掲示しています。経年の実績比較や他車両との比較を可視化することで、当事者意識の醸成による燃費改善に取り組んでいます。



早生桐の試験植栽 ～スギの5倍のCO2固定量～

バイオマス発電への活用等を視野に、2022年度から九州電力社有林や遊休地での早生桐の植栽を開始し、様々な条件下での生育状況をモニタリングしています。
早生桐は、5～6年で成木（樹高15m）になる温暖化対策の新たな切り札として注目されています。
今後は、2028～2029年度での収穫を目途にモニタリングを続け、得られたデータを基に、生育面・経済面の観点から検証を行い、事業への導入可能性を検討していきます。



わずか2年半で大きく成長！

環境経営方針2 循環型社会への貢献



伐捨間伐材など未利用資源の有効活用やグリーン購入の徹底、廃棄物の再資源化等に取り組み、限りある資源を効率的に利用し、持続可能な形で循環させる社会づくりに貢献します。

木材のカスケード利用による未利用材の削減

間伐等で生産された丸太は市場や集成材・合板メーカーへ出荷、未利用材はバイオマス発電向けに売却し、収穫・販売量を拡大することで循環型社会の貢献に寄与しています。



一般廃棄物の分別

廃棄物のリサイクル率向上と発生量抑制に向け、各事業所が所在する自治体の基準に沿った分別の徹底に努めています。特に紙類については、グループ内のリサイクル会社と契約し、機密文書を含む古紙リサイクル率100%の取組みが定着しています。



「環境経営レポート」表彰

当社の事業活動と環境経営の取組みを「環境経営レポート」として取りまとめ、毎年『EA21レポート大賞・九州』の表彰制度に応募し、様々な賞を受賞するとともに、エコアクション21中央事務局主催の『EA21オブザイヤー』の受賞に向けても挑戦をしています。
※過去のレポートは、当社HPにてご覧頂けます。

2023



「九州地方環境事務所長特別賞」

2024



「選考委員会特別賞」

2025



「環境経営レポート大賞・九州」

2025年度の主な取組み内容

環境経営方針3 自然共生社会への貢献



多様な生物育成環境の保全と事業活動がもたらす生態系への影響低減に向け、効果的な生態系の維持・回復対策の手法や手順、実施スケジュール等を「生物多様性保全ガイドライン」として取りまとめ、改善策の検討・提言に取り組んでいます。

希少種の保全活動（九州電力社有林内）

巡視活動

九州電力社有林内に生息する希少植物の定期的な巡視活動を行っています。
（実施時期：4－11月の期間に月1回実施、花期である6－9月は月2回実施）



巡視活動で確認された希少植物23種（2025年度）

- ・アギナシ
- ・オオイヌノハナヒゲ
- ・カキラン
- ・コタヌキモ
- ・コバノトンボソウ
- ・サギソウ
- ・サワギキョウ
- ・シムラニンジン
- ・シラヒゲソウ
- ・タチカモメヅル
- ・チョウセンスイラン
- ・トキソウ
- ・ヌマクロボスゲ
- ・ヒメユリ
- ・ホザキノミミカグサ
- ・ミカツキグサ
- ・ミズオトギリ
- ・ミズチドリ
- ・ミズトンボ
- ・ミタケスゲ
- ・ミミカグサ
- ・ムラサキミミカグサ
- ・モウセンゴケ

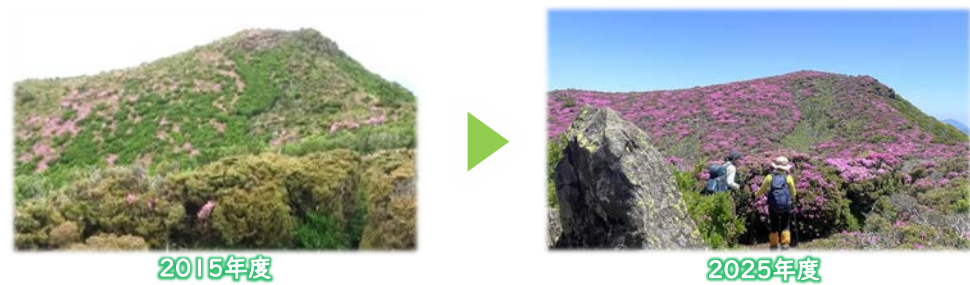
定点植生調査

湿地帯の希少植物群生地においては、コドラード(区画)法による植生調査を行っています。シラヒゲソウ等湿生植物の個体数調査の結果、2025年度においても湿地帯の植生が維持されていることを確認できました。
（実施時期：開花状況を踏まえ、花期である7－10月の間で最も開花している時期に実施）



定点写真観測

くじゅう地域の代表的な希少種であるミヤマキリシマの定点観測・調査をしています。また、支障木を伐採する活動を行っています。（実施月：6月初旬）



シャクガの幼虫(シャクトリムシ)の影響が少なく、植生は回復傾向にあります。

九州電力社有林の管理や官公庁所管の公園の指定管理者業務の中で、地域の方々や地場企業、教育関係者、自治体の方々との協働による環境教育に取り組んでおり、参加される多くの皆さまと環境コミュニケーションを展開しています。

九電みらい財団の「くじゅう九電の森」における環境教育

九電みらい財団とともに、九州電力社有林「くじゅう九電の森」を舞台とする環境教育に取り組んでおり、2025年度は開催回数8回、参加人数439人でした。



森の講話



間伐体験



森の役割実験

事業活動を通じた地域社会との協調

指定管理者施設における各種イベント

指定管理者施設において、地域に根付いた公園の管理運営を行っています。各施設では、体験学習・ボランティア活動・収穫祭・スポーツ大会など、様々なイベントを開催しています。



さわやかコミュニティ活動

筑豊緑地 緑のオアシス



こけ玉づくり体験

水もれ園と、せせらぎと、緑の風と。
OYASUO 夜須高原記念の森
YASU KODEN KINEN NO MORI



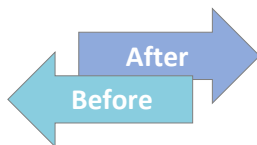
花市場&マルシェ

西南社の湖畔公園
Seinamorinokohan Park

合同清掃活動

2026年1月に近隣の九電グループ会社4社※合同で、塩原中央公園(福岡市南区)の清掃活動を実施しました。

※九州高圧コンクリート工業(株)・九電テクノシステムズ(株)・九州電力(株)総合研究所・九州林産(株)



2025年度の主な取組み内容

環境経営方針5 環境管理の推進

3

6

8

11

13

環境関連法規の遵守状況及び、環境マネジメントシステムの取組みは以下の通りです。

主な環境関連法規の遵守状況

事業活動に関する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
また、災害や事故、環境関連法規に関するステークホルダーからの指摘や訴訟もありませんでした。

主な環境関連法規

- | | | | |
|---------------|-----------|------------|---------|
| ・生物多様性基本法 | ・フロン排出抑制法 | ・資源有効利用促進法 | ・森林法 |
| ・建築基準法 | ・建設リサイクル法 | ・騒音規制法 | ・自然公園法 |
| ・温暖化対策推進法 | ・浄化槽法 | ・振動規制法 | ・オフロード法 |
| ・グリーン購入法 | ・廃棄物処理法 | ・PRTR法 | ・消防法 |
| ・循環型社会形成推進基本法 | ・家電リサイクル法 | ・労働安全衛生法 | |

環境マネジメントシステム（EMS）レベル向上に向けた取組み

EA2I中間審査

EA2Iでは、当社EMSレベルの定着状況について第三者による審査を受けています。
(審査月：10月)



環境委員会

環境委員会を年2回開催し、環境活動実績の評価や見直し、環境経営計画や目標設定など審議・決定しています。
(開催月：9月・3月)



EA2I 環境経営レポート大賞・九州での受賞

2025年度環境経営レポートが「環境レポート大賞・九州」を受賞しました。「分かりやすさ・見やすさ・読みやすさ」をテーマに、余白や色彩などを工夫し、シンプルで活用しやすいレポートであることが評価されました。(表彰月：1月)



選考委員(左)から賞状を授与される小塩前社長(右)



受賞者集合写真

燃料漏れを想定した緊急対応訓練

環境関連の緊急事態を想定した対応訓練を実施しています。

1. 燃料がこぼれた箇所をウエスで丁寧に拭き取る

吸収したウエスは産廃処理します

2. 燃料がこぼれた箇所に水を散布

3. 水をかけた箇所をウエスで拭き取る

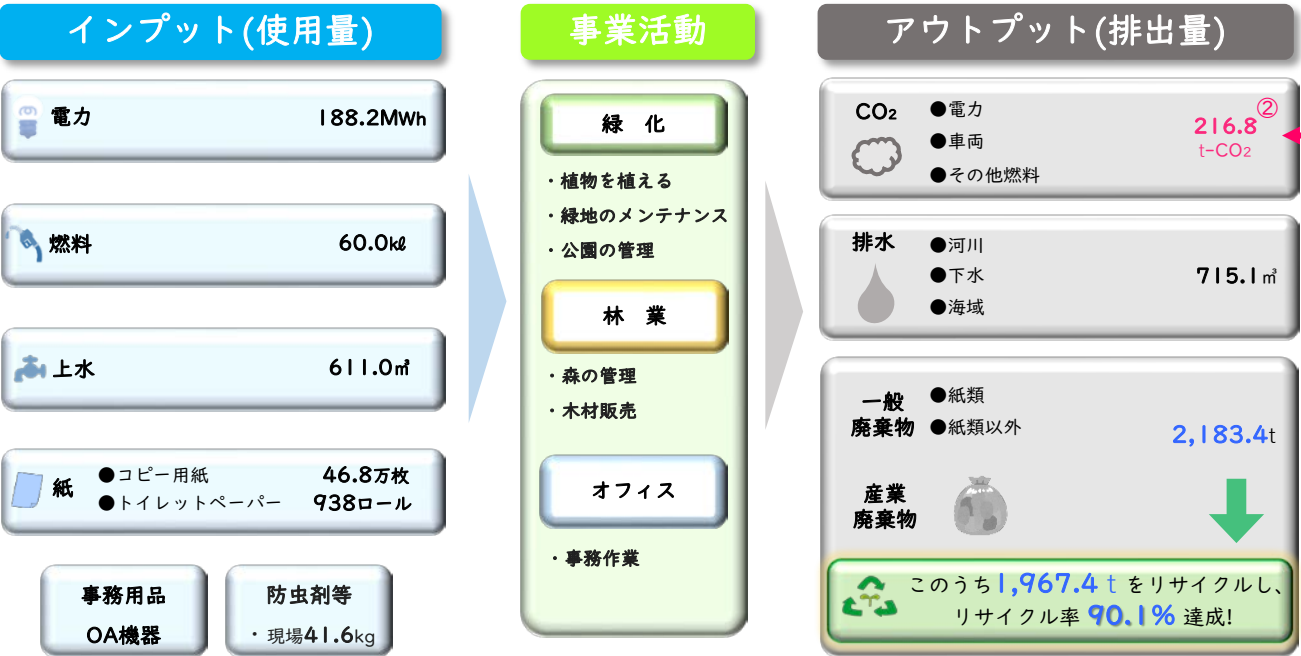
これまでの環境活動による成果 (現場実績含む)

環境負荷削減量とコスト削減額 ※2013年度：国が定めた温室効果ガス削減目標（2030年度までに46%削減）の基準年度

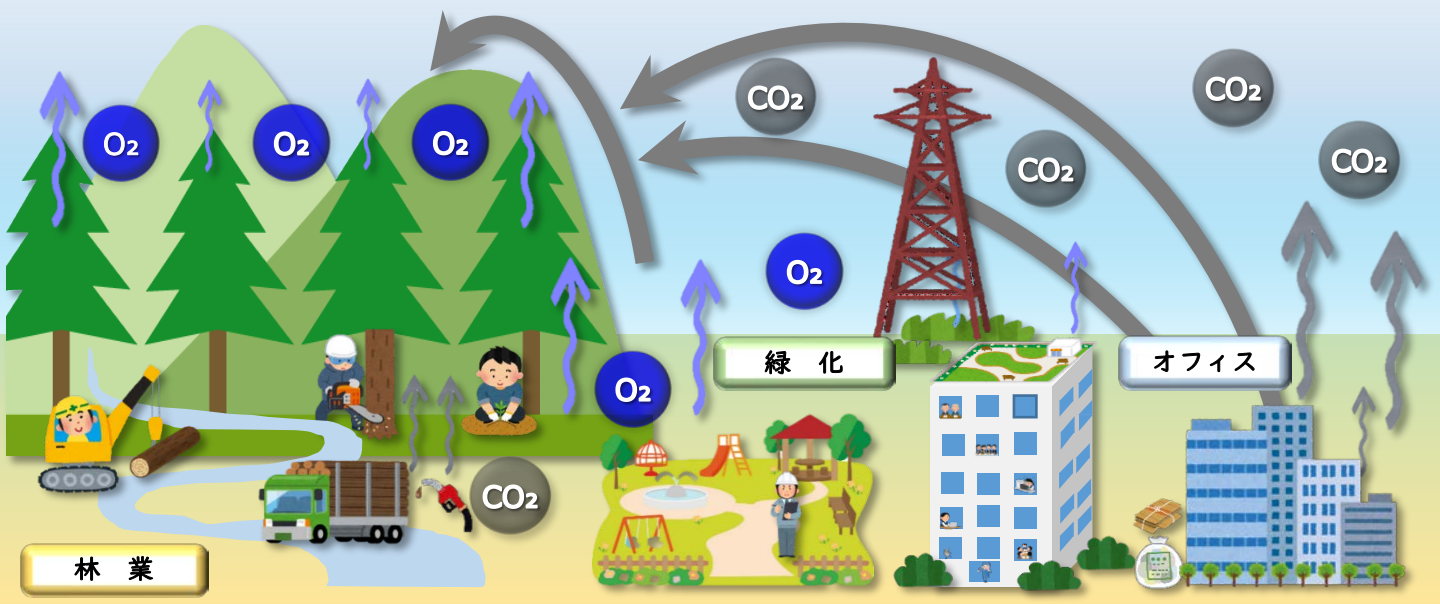
分 類	単位	物 量					分 類	金 額 (単位：千円)				
		2013 ※ 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	削減量 (2013年差)		2013 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	削減額 (2013年差)
電力	MWh	430.0	186.9	192.8	188.2	241.8	電力	13,145	5,714	5,893	5,752	7,393
車両燃料	kℓ	93.91	70.1	62.9	59.4	34.5	車両燃料	16,072	12,117	10,898	10,300	5,772
その他燃料	kℓ	3.8	4.5	0.9	0.6	3.2	その他燃料	431	511	112	72	359
水道	m	930.0	764.0	521.1	611.0	319.0	水道	381	313	214	251	131
廃棄物処分	t	384.0	66.0	25.1	216.0	168.0	廃棄物処分	384	107	138	142	242
廃棄物リサイクル	t	3,776.0	3,557.6	2,868.7	1,967.4	1,808.6	廃棄物リサイクル	4,174	4,648	3,821	3,190	984
							合 計	33,954	23,067	20,752	19,468	14,486

2025年度は、2013年度比※で、
14,486千円削減

マテリアルバランス (2025年度)



当社が長年管理してきた、九州電力社有林の2025年度末のCO₂吸収蓄積量 **146.2万 t-CO₂** ①
※当社事業活動でのCO₂排出量(年間)の約**6,744**倍に相当 (計算式：①/②)



代表者(社長)による全体の評価と見直し・指示

環境委員会を開催し、2025年度の環境経営・環境活動に対して、代表者(社長)から以下の通り全体の評価と見直し・指示がありました。



全体の評価

環境経営方針に沿って環境経営目標(定量・定性)が設定され、その達成に向けた取組みを示す環境経営計画が着実に実践されており、事業活動と環境経営を一体のものとしてしっかりと推進しているものと認識しています。

その取組みの結果が、環境経営レポートの「環境経営レポート大賞・九州」受賞という形で社外評価をいただくことになりました。

見直し・指示

環境活動項目毎の評価及び見直しについて、引き続き環境活動の品質水準向上の観点から、以下の諸点を実施してください。

環境経営レポートの活用について

DXが進展する中、引き続き、当社とお客さま等とを繋ぐコミュニケーションツールとしての活用を図るため、紙面配布だけでなく、ホームページや九電「つながる」サイトへのレポート掲載、SNSの活用など、インターネット環境を活用した情報発信にも努めてください。

ペーパーレス化の促進について

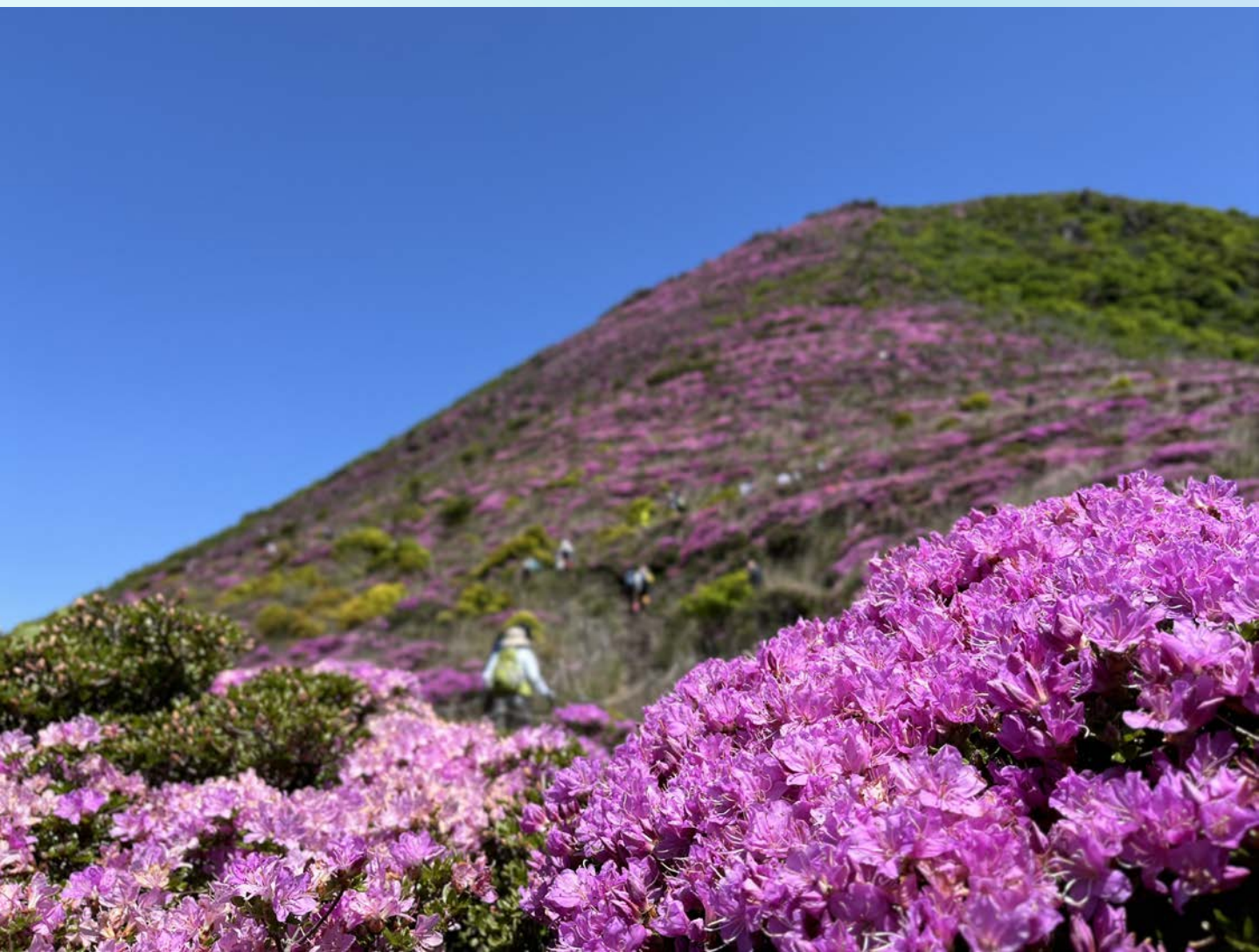
業務資料の電子化を進め、ペーパーレス化の促進や紙資料回覧の削減等に引き続き取り組んでください。

グリーン購入の推進について

環境ラベル(グリーン購入法適合商品・GPNエコ商品ねっと掲載・エコマーク認定商品)の付いた製品の購入を徹底するよう、各所に周知してください。

2026～2028年度環境経営目標・環境経営計画

環境経営方針	2026～2028年度				
	環境経営目標（各年度）			主な環境経営計画	
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量 (単位:t-CO ₂)	239以下	・空調の適温化(冷房28℃程度、暖房19℃程度)の徹底 ・パソコン・プリンタ等の不使用時電源オフの徹底
			電力消費量(単位:MWh)	186,213以下	・始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯 ・エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進
		運輸面でのCO ₂ 排出の抑制	車両燃料消費率 (単位:km/ℓ)	14.0以上	・車両更新時において、低燃費車へ計画的に切替え ・エコドライブの確実な実施
		事業所における省資源活動の推進	上水使用量(単位:m)	555以下	・節水意識を喚起するシールの活用などによる日頃からの節水の励行
	カーボンニュートラルの実現	J-クレジット(森林)創出の支援		・自治体等へ森林由来のJ-クレジット創出支援の実施と新規受注に向けた提案の実施	
	オゾン層の保護	規制対象フロンの回収徹底と代替化への取組み		・法定点検を確実に実施。空調入替の際には規制対象フロンの確実な回収と代替化の取組みを実施	
	電化の推進	オール電化の推進		・お客さま来訪時に目に付く場所（本店玄関ホール）を活用して、オール電化資料を配置し、PR	
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量（紙類以外）(単位:kg)	1,184以下	・一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進
			産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	99.0以上	・産業廃棄物（水銀使用製品含む）の分別徹底 ・産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底
			オフィス・工場現場	99.0以上	・機密文書、使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルの実施
		循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)	56.0以上	・未利用材の有効利用率の向上、及び低質材の販路拡大に努める
	コピー用紙購入量削減	コピー用紙購入量削減の徹底	コピー用紙購入量(単位:kg)	2,036以下	・会議資料や周知資料等のペーパーレス化を図る
3 自然共生社会への貢献	グリーン購入の徹底	事務用品（紙類、文具類）とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)	97.0以上	・電子カタログ購買システムと環境データシステムによる事務用品のグリーン購入率把握・改善指導 ・事務用品以外にも極力環境ラベル認定品の購入を徹底
	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する緑化事業活動の展開	提案営業で受注した植林・植栽を含む緑化工事件数(単位:件)	40以上	・植林植栽を含む緑化工事の提案営業による受注に努める
		生物多様性保全への取組み	希少種の保全活動	・定期的な情報収集とマッピング ・蓄積・分析したデータのステークホルダーへの提供など適正管理向け各種活動の展開・改善を実施	
			事業活動における環境リスクの低減	・チェックリストの活用・充実 ・各作業項目におけるチェックリストの活用による生物多様性へ配慮した施工推進並びに施業完了後の影響評価の実施	
		化学物質使用量の削減		・PRTR制度対象物質の使用量の把握（協力会社も含む） ・周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、使用する化学物質の種類について代替物質の活用などにより極力PRTR制度対象物質の使用を抑制	
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応		・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善	
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境経営レポートの内容充実と積極的な公開・活用		・環境経営レポートを最新年度実績に基づき適切に更新 ・環境経営レポートをコミュニケーションツールとして、当社ホームページ等での効果的な公表を継続すると共に、協力会社・お客さまに各種イベントで配布するなど積極的にPR	
	地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み		・清掃活動、植樹活動などのボランティア活動への積極的な参加	
		環境教育の内容充実と自律的改善の取組み	「くじゅう九電の森」を活用した環境教育の検証と改善(検証月数/開催月数)(単位:%)	100以上	・「くじゅう九電の森」を活用した環境教育の検証と改善を実施
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等にに応じたEMSレベル向上への取組み		・内部監査の際、EA21監査(EMS運用業務支援)を同時に実施	
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定		・環境関連データの全社大での確実な把握に努め、的確な目標管理と設定目標の実効性向上	
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み		・環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施	
		環境会計データの確実な把握と活用		・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加		・九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加するとともに、各所でのEA21監査で適切な指導を行う	
		みらいNetの活用による環境情報の共有化		・みらいNetの「九電グループ環境情報」により、環境情報を収集し社内共有化を図る	
	環境関連法規の遵守徹底	環境法規制等の特定		・環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗い出し（棚卸し）を確実に実施	
		環境法規制等遵守状況の確認・評価		・環境関連法規等遵守状況の確実な把握と評価	



九州林産株式会社

〒815-0041
福岡市南区野間3丁目7番20号
TEL 092-562-3014

2026